

2023 年春、世の中は、きれいな桜を楽しみ、行楽地に賑わいが戻っております。新型コロナウイルス感染症は消えてなくなりはしませんが、今後ますます、日本においても新型コロナウイルスとの共存を社会的に認めて進んでいくことと思います。

さて、今回、歴史ある「脊椎脊髄ジャーナル」の編集後記を初めて担当させていただきます岡山大学脳神経外科の安原隆雄です。どうぞよろしくお願いします。

今号の特集では、この領域を多年にわたり牽引されてきた松山幸弘先生による「術中脊髄機能モニタリングの UP TO DATE」が生まれ、多くの玉稿をいただきました。トップランナーにより基本的な内容から、さまざまなモニタリング方法、偽陽性の考え方、レスキュー操作、手術室・麻酔の実際、さまざまな病態におけるモニタリングなどについて、多くのフローチャートや具体的な症例も交えてわかりやすく解説されています。

松山先生も述べられていますが、術中脊髄機能モニタリングは、術式ごと・患者ごとに大きなばらつきがあります。手術において守るべき重要な指標や考え方を本特集では一気に勉強でき、医療安全上も、MUST のモダリティといえる術中脊髄機能モニタリングを利用する脊椎脊髄外科医必携の特集と思われます。将来的には、多くのデータ学習によってマスターとなった AI により、症例ごとにさまざまな条件が勘案された真のアラートが術中即時提供され、私たちが日常的に利用できる日が来るのではないかと夢想してしまいます。

また、逸見祥司先生の Nomade では、私たちの日常・診療に潜む「スキマ」を見つけ、よい臨床・研究を行うことの重要性が示されており、ポーッと生きてはいけなかったと思いました。

3 月に行われた WBC では、日本が素晴らしい戦いをして、たくさんの方の勇気をいただきました。これまで日本のスポーツ団体競技は、チーム力・組織力を活かして勝利を目指しても、なかなか厳しい戦いとなることも多かったと記憶しています。しかし、今回の WBC における全勝優勝では、個の力の傑出をもとにしたうえでの優れたチーム力・組織力の重要性が示されたと思います。先日私は、10 時間を超える脊髄腫瘍手術で、時間とともに MEP が減衰し不安を感じる中、検査技師が刺激強度を上げて対応してくれて、最終的に MEP も保たれて術後神経症状の悪化もなく目的を達することができました。信頼できる仲間とともに困難に立ち向かう必要があると考えています。脊椎脊髄領域における診療・手術でも、術中脊髄機能モニタリングに代表されるさまざまなモダリティを、麻酔科医・技師・看護師らとともに正しく利用し、正しい判断を行いながら手術を進めることができる、個としての知識・技術を身につけなくてはなりません。今号の特集が、読者皆様にとって明日からの臨床に活かるものでありますことと皆様の健康なよい日々を願っております。

(安原隆雄)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

山崎正志 (編集委員長)
亀山 隆 園生雅弘 高橋敏行
高見俊宏 筑田博隆 永島英樹
中村雅也 根尾昌志 原 政人
飛驒一利 堀 正明 松山幸弘
安原隆雄

Vol. 36 No. 2
(2023 年 4 月 28 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価 (本体 2,500 円 + 税)

(配送料別)

年ごめ予約購読料 33,300 円 + 税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2023.

Printed in Japan

JCOPY (出版者著作権管理機構 委託出版物)

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。